



茵陳五苓散 (いんちんごれいさん)

【処方コンセプト】 口が渇き、尿量が減り、むくんだり、胸がつかえて吐いたりするタイプに。

このタイプの方は、口が渇き、尿量が減り、むくんだりする時に用いる。また、肝胆に炎症があり、気持ちが悪くて吐いたり、時に黄疸が出ることもある。このような方の二日酔、蕁麻疹(じんましん)などに応用される。

◆五苓散（口渇、尿不利を主訴とする）に茵陳蒿（利胆作用がある黄疸の要薬）を加えた処方である。

◆一般には脾胃湿熱、肝胆湿熱の肝障害や吐き気（時に黄疸を伴う）などに用いる。

◆湿熱とは、湿邪と熱邪が合わさって起こった複雑な病症のことで、発熱、頭痛、からだが重くて痛む、お腹が張って食欲がない、小便が少なく黄赤色を呈することがある。

◆応用として、湿熱の病症としての二日酔や蕁麻疹にも用いる。

◆湿熱の熱症状が茵陳蒿湯より弱く、五苓散より強い、また湿症状が五苓散より弱く、茵陳蒿湯より強い証である。茵陳五苓散は、臨床では一番用いる機会が多い。

【処方構成】 6味

利水の五苓散がベースになって、清熱利湿の茵陳蒿（インチンコウ）を加えたもの。茵陳蒿には止痒作用もあり、蕁麻疹をはじめ浮腫を伴う各種の皮膚搔痒症にも効果がある。

	清熱			瀉下	解表	利水(化湿)					補気	配合生薬数						
	黄柏	山梔子	茵陳蒿	黄連	黄芩	大黄	柴胡	生姜	桂皮	茯苓	沢瀉		猪苓	白朮	半夏	蒼朮	人参	甘草

